

おやまわたらせ ワイズユースビジョン



はじめに

小山市は、農業、商工業のバランスが良く、市街地の周辺に農地や平地林が広がり、市の中心部を流れる思川がラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」に繋がる自然環境を有しています。田園環境と都市環境の調和のとれた「田園環境都市おやま」を将来にわたって維持向上させ、市民の皆様が快適に暮らし、住み続けたいと感じられるウェルビーイングが実現できるまちづくりを進めています。



2012年に国際的に重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録された渡良瀬遊水地は、面積約 3,300ha の本州以南最大のヨシ原を有する湿地として、洪水被害を防止する治水の要であるとともに、絶滅危惧種を含む多くの貴重な動植物が生息・生育する「自然の宝庫」です。近年では、遊水地内に生息する国の特別天然記念物「コウノトリ」のペアからヒナが誕生しています。

本市では、2014年策定の「渡良瀬遊水地関連振興5箇年計画」の次期計画として2018年に策定された「小山市渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画～エコ・アグリツーリズムの推進～」に基づき、2020年に渡良瀬遊水地のエコツーリズムや地域活性化の拠点施設となる「渡良瀬遊水地コウノトリ交流館」が開館し、様々な企画展やエコツアーおよび環境学習を実施してきました。

この度、計画策定から5年以上が経過し、今後の渡良瀬遊水地及び周辺地域における将来像を設定するとともに、推進すべき具体的な施策を検討・実施し、取組をさらに深化させていくことが重要であることから「おやまわたらせワイズユースビジョン」として改定を行います。

本計画の策定にあたっては、「渡良瀬遊水地コウノトリ交流館」について、渡良瀬遊水地や周辺地域の魅力発信を通じて、交流人口の増加や地域活性化に資する場所となるよう、周辺地域を含めた施設の今後のあり方を検討し、計画全体の整合性を図ることで、持続可能な地域づくりを推進してまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、ご協力いただきました市民の皆様をはじめ、ご尽力を賜りました小山市渡良瀬遊水地懇話会委員の皆様に感謝申し上げますとともに、本計画の遂行にあたりまして、引き続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。

令和7年3月

浅野正富

目次

1.計画策定の趣旨.....	1
2.計画の位置づけ及び計画期間	2
3.渡良瀬遊水地の現況	3
3-1 渡良瀬遊水地の歴史	3
3-2 渡良瀬遊水地第2調節池.....	5
3-3 旧思川	6
3-4 コウノトリ交流館	6
3-5 周辺地域.....	7
3-6 生井桜つつみ、あんずの里	7
4.第2期計画の検証 (検証年月:令和 5 年 5 月)	8
4-1 小山市渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画の検証	8
4-2 渡良瀬遊水地第2調節池エコミュージアム基本計画(第2期計画)の検証	9
5.計画の目標	10
5-1 目指すべき将来像	10
5-2ゾーニング.....	12
5-3将来像実現のための行動理念.....	14
5-4 施策の体系	15
6.実施施策	16
7.策定体制	51
7-1計画の策定体制	51

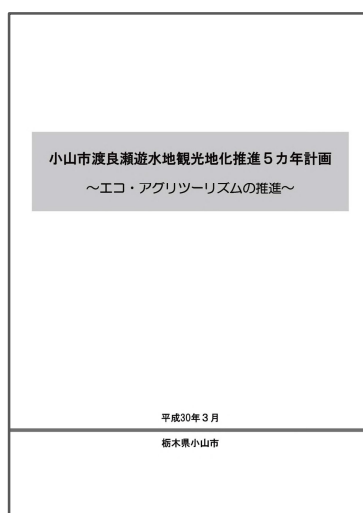
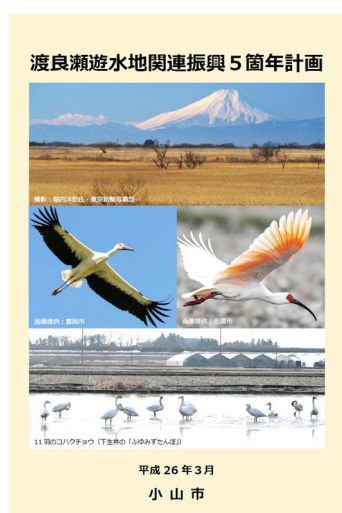
資料編

資料1 前期計画の検証	54
資料2 策定経緯及び概要	93
資料3 「渡良瀬遊水地や周辺地域に関するアンケート」の結果.....	94
資料4 「渡良瀬遊水地コウノトリ交流館のあり方検討」の結果.....	99
資 4-1 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館のあり方検討について.....	100
資 4-2 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館の現況.....	105
資 4-3 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館における課題の整理.....	118
資 4-4 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館のあり方の方向性について	120

1. 計画策定の趣旨

小山市の優れた地域資源である渡良瀬遊水地は、2012年7月3日にラムサール条約湿地に登録され、それを受けて、本市では2014年3月に「渡良瀬遊水地関連振興5箇年計画」を策定し、「賢明な活用の3本柱(①治水機能確保を最優先としたエコミュージアム化、②環境に優しい農業を中心とした地場産業の推進、③コウノトリ・トキの野生復帰)」を推進してきました。①については、2015年3月に「渡良瀬遊水地第2調節池エコミュージアム基本計画」を策定し、取組を進めてまいりました。

2018年3月には、次期計画として、「小山市渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画～エコ・アグリツーリズムの推進～(第2期渡良瀬遊水地関連振興計画)」を策定し、特に、「おもてなし環境の向上による観光客の受入促進」について、ターゲットを絞りながら、取組や受入環境、呼び込む環境、具体的なアクション・観光商品等の取組計画を整理し、渡良瀬遊水地の観光地化に向けて進展を図ってきました。



その後、同計画に基づき、渡良瀬遊水地のエコツーリズムや地域活性化の拠点施設となる「渡良瀬遊水地コウノトリ交流館(以下、コウノトリ交流館とする)」が2020年5月に開館し、様々な企画展や、野鳥観察やヨシ刈り体験などのエコツアー・環境学習等を実施しています。また、周辺の地元農家の方々と協力し、「無農薬や減農薬による田んぼづくり」や「ふゆみずたんぼ」に取組むとともに、コメや地酒、地魚など食を中心とした「おやまブランド」の認定も進められています。コウノトリ・トキの野生復帰に向けた取組では、2018年2月に設置した渡良瀬遊水地内の人工巣塔でコウノトリ「ひかる」が巣作りを開始して以降、順調に定着し、2020年5月に東日本で初めて野生復帰(ヒナ誕生)を確認しました。

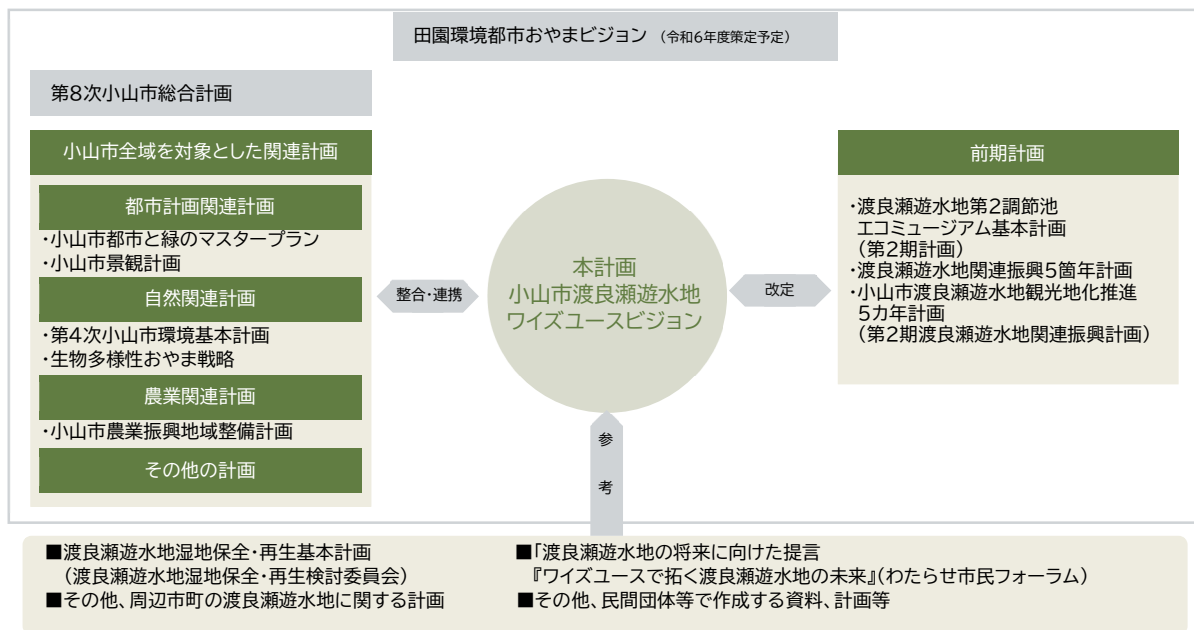
第2期計画策定から5年以上が経過した今、このような取組の進展状況を踏まえて、今後の渡良瀬遊水地及び周辺地域における将来像を設定するとともに、推進すべき具体的な施策を検討・実施し、取組を更に深化させていくことが重要です。また、小山市は自然、文化、伝統などの保護と活用について、長期的な視点を入れ込んだ「田園環境都市おやまビジョン」の策定を予定しています。市域に含まれる渡良瀬遊水地及び周辺地域の自然環境や伝統文化を守り、将来にわたって活かしていくため、30年先の姿を設定し、これに向かう方針、施策が必要となっています。

これまでの施策事業の進捗状況等を検証しつつ、地域住民等の意見を把握しながら、「おやまわたらせワイズユースビジョン」を策定し実践することで、持続可能な地域づくりを推進していきます。

2.計画の位置づけ及び計画期間

本計画「おやまわたらせワイズユースビジョン」は、市制 100 周年を迎える 2054 年の本市のあるべき姿を描く「田園環境都市おやまビジョン」の実現に向け、第8次小山市総合計画を上位計画としつつ、関連する各計画と整合性を図りながら作成します。また、本ビジョンは、前期計画にあたる「小山市渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画（第2期渡良瀬遊水地関連振興計画）」と「渡良瀬遊水地第2調節池エコミュージアム基本計画（第2期計画）」を統合するとともに、渡良瀬遊水地の関係行政機関や民間団体が策定又は作成する渡良瀬遊水地関連計画、提言その他資料を踏まえて作成します。

本計画の計画期間は、30 年後の渡良瀬遊水地および周辺地域の姿を将来像として設定し、将来像に向かって、10年間で実施する施策を定める計画とします。



ワイズユースとは、

健全な湿地から得られる恵みを、生態系に配慮して持続可能な形で利用することです。

漁業や農業などの産業での利用はもちろんのこと、憩いや遊びなどの場としての文化的な利用も当てはまります。ワイズユースは豊かな湿地の恵みに支えられているため、湿地を健全な状態に維持し、回復させる保全や再生の取り組みも重要となります。

出典：環境省 WEB サイト

3. 渡良瀬遊水地の現況

渡良瀬遊水地は、栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県の4県4市2町にまたがる、本州以南最大(約 3,300ha)の低層湿原です。3つの調節池と1つの貯水池からなる遊水地は、利根川水系の渡良瀬川・思川・巴波川の3河川が流れ込み、増水した川の水を一時的に溜めることで洪水被害を防止する治水の要として大切な存在です。また、生活用水の補給を行うなど重要な利水の役割も担い、首都圏へ水資源を提供しながら、下流住民の命を守っています。



(出典: 関東地方整備局利根川上流河川事務所 HP)

3-1 渡良瀬遊水地の歴史

現在の渡良瀬遊水地一帯は、もともと赤麻沼や石川沼など大きな沼のある低湿地帯でした。そこに人々は集落を作り水田を開きました。沼の南にあった谷中村などは、時々洪水に見舞われましたが、洪水は山地の肥沃な土ももたらしたので農作物がよく実ったほか、漁業や養蚕業が盛んで、この地域の暮らしは豊かでした。

しかし明治時代の 1880 年代以降、渡良瀬川上流の足尾銅山からの鉱毒が流出し、排煙が原因のはげ山化によるたび重なる洪水によって、流域の農業や人々の生活にさまざまな被害をもたらし、川俣事件や田中正造の操業停止運動など大きな社会問題となりました。この鉱毒問題や洪水の対策として、明治政府は谷中村や周辺の買収などをすすめて、一帯の遊水地化を図りました。1913 年には、渡良瀬川の付け替え工事を開始し、鉱毒と土砂を赤麻沼に堆積させました。こうして 1922 年には周囲堤(遊水地周りの堤防)の造成が完了して、遊水地が誕生し、1945 年頃までに赤麻沼はほぼ埋まってしまいました。

完成後、渡良瀬遊水地は利根川水系の治水の要(かなめ)とされてきましたが、1947 年のカスリーン台風の時は遊水地周辺の堤防が14カ所も破堤し、周辺地域は甚大な被害を受けました。その後治水機能向上のため、建設省によって遊水地内を3つの調節池に分ける工事が進められ、1997 年に完成しました。一方、1976 年から渡良瀬遊水池総合開発事業が開始され、1989 年には第1調節池内の南側に渡良瀬貯水池(谷中湖)が竣工されました。洪水調節や首都圏の水道用水の安定供給を目的としており、水質改善のために貯水池の干し上げやヨシ原浄化施設による取組などを行っています。この谷中湖はハートのような型をしています。これは地元の人々の歴史を後世に伝えようという気持ちと行動によって、谷中村跡の中心部が元のまま残されたためです。

1990 年前後からは、遊水地の貴重な動植物や優れた湿地の生態系を保全しようという声が高まり、その結果第2調節池に計画されていた貯水池建設は中止され、ラムサール条約湿地登録活動が始まりました。2000 年に、国土交通省の下で行政と市民団体・研究者による懇談会によって「渡良瀬遊水地の自然保全と自然を生かしたランドデザイン」がまとめられたほか、2006 年に市民連合による請願署名活動が開始され、2009 年には「渡良瀬遊水地をラムサール条約登録地にする会」が発足されました。その後 2010 年に、国土交通省が「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」を策定し第2調節池で掘削による湿地保全・再生事業が本格的に開始されたことにより、2012 年のラムサール条約湿地登録や現在の湿地再生の取り組みにつながっています。登録後の 2013 年には、渡良瀬遊水地周辺の自治体や自然保護団体、各種団体が参加する「渡良瀬遊水地保全・利活用協議会」が発足し、ワイズユースを目指す活動を推進しています。

渡良瀬遊水地の年表(明治時代以降)

年代	出来事
1880 年代～	足尾銅山の鉱毒流出の社会問題化
1902 年	渡良瀬川の改修計画の中で、遊水地化を報告（国の鉱毒調査会）
1906 年	谷中村が藤岡町(現・栃木市)に合併廃村
1911 年～	遊水地の周囲堤の造成（～1922 年）
1947 年	カスリーン台風の襲来（遊水地周辺の堤防 14 ヶ所破堤）
1963 年～	調節池化の事業実施
1970 年	第 1 調節池の概成
1972 年	第 2 調節池の概成
1989 年	渡良瀬貯水池（谷中湖）の竣工
1997 年	第 3 調節池の概成
2000 年	渡良瀬遊水地の自然保全と自然を生かしたランドデザイン（国土交通省）
2010 年	渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画（国土交通省）
2012 年	渡良瀬遊水地 ラムサール条約湿地登録
2018 年	渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画（改訂版）（国土交通省）
2020 年	東日本初のコウノトリの野外繁殖（以降 5 年連続累計 11 羽のヒナが誕生）

3-2 渡良瀬遊水地第2調節池

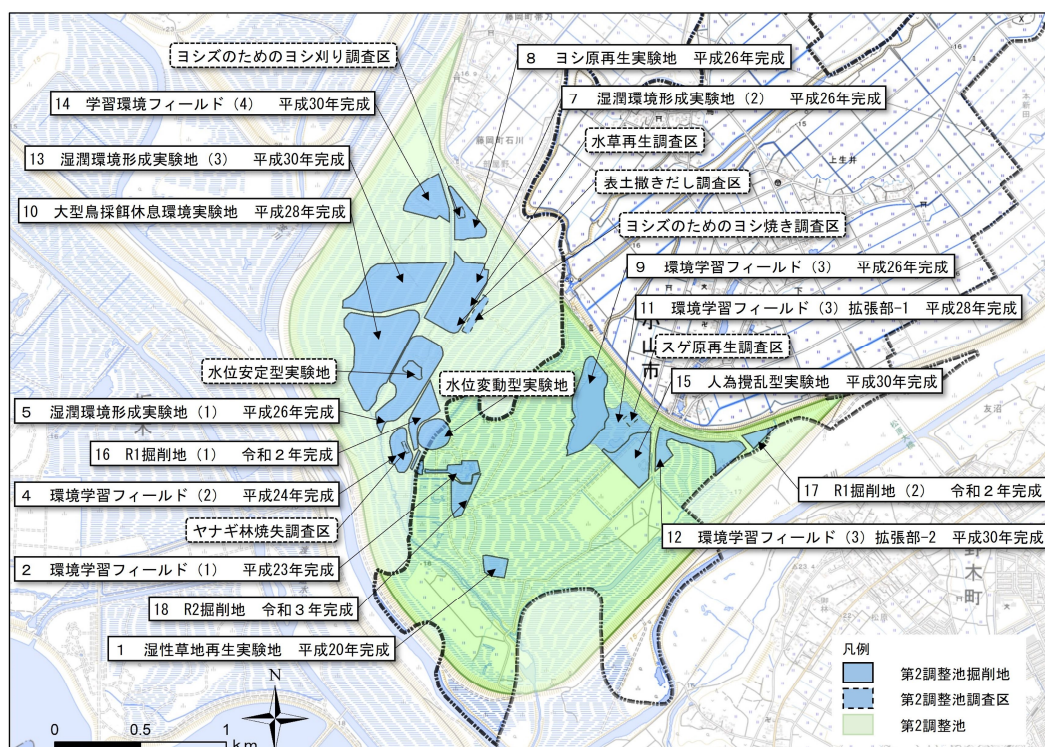
渡良瀬遊水地第2調節池には、約 1,000 種の植物が生育し、ワタラセツリフネソウ等の新種も確認されるなど、生物多様性の宝庫となっています。毎年3月のヨシ焼きにより古くから維持されてきたヨシ原をはじめとする湿地環境は、多くの生きものの棲み処となっており、特に、日本有数のチュウヒの越冬地として知られています。

小山市域は、渡良瀬遊水地の第2調節池の約 260ha(遊水地全体の約7.9%)を占めており、2012 年のラムサール条約湿地への登録後、国の特別天然記念物であるコウノトリの野生復帰を目指す環境づくりの取組が積極的に進められています。

湿地環境の単調化や外来種の侵入などの課題も確認されており、湿地の希少植物の生育に悪影響を及ぼすヤナギや外来種のセイタカアワダチソウなどの植物除去活動が行われています。

乾燥化による湿地の減少と植生の単純化を解決し、治水容量を確保するために、国土交通省が主導で、「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」が策定されました。計画において、第2調節池は「自然環境と遊水地の役割の調和を考えながら、湿地や豊かな自然環境を再生する場」とされました。計画に沿って、2010 年から、第2調節池に対するゾーニング、植生分布状況調査を実施し、湿地再生のための掘削が始まりました。小山市域の環境学習フィールド3は「治水機能を最優先としたエコミュージアム化」、「トキ・コウノトリの野生復帰」、「環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進」の実現を目指した「第2期渡良瀬遊水地関連振興計画」の主要対象地となっています。

また、渡良瀬遊水地には、2009 年以降、イノシシが出没するようになりました。近年、遊水地近くの農地での被害や市街地への出没が相次いでおり、対策が必要となっています。



3-3 旧思川

旧思川は、渡良瀬遊水地建設の際に現在の流域に移し替えられ、利根川に直接流れていた思川の一部分が残り、長さ約1.4kmの池となりました。

残された水辺はフナなどが釣れる絶好の釣り場となっているほか、2000年から地域の憩いの場として、堤防上のオモイガワザクラの桜づつみや生井ふるさと公園が整備されました。旧思川の歴史や、水遊びの思い出では地元住民のアイデンティティの1つとなっています。

上流に水源が無く、水質の悪化や水辺のヨシ、陸地の雑草管理などの課題があり、今後、対策検討を進める必要があります。



3-4 コウノトリ交流館

コウノトリをはじめ渡良瀬遊水地に関する情報発信やエコツーリズムの推進、地域活性化を図るための拠点施設として、2019年度に整備し、2020年5月に開館しました。

古民家をリノベーションした施設で、「情報発信・展示棟」（展示スペース）、「事務所棟」（受付窓口）、「展示・作業棟」（倉庫）の3つの建物からなっており、年間を通して様々な企画展やエコツアー・環境学習等を実施しているほか、企画展等がない日は休憩所としても利用されています。

2020年5月の開館から2024年6月までの累計来館者数は40,000人を超え、多くの方に渡良瀬遊水地やコウノトリに関する情報のほか、自然観察や湿地体験、交流の機会を提供しています。



（出典：栃木県農政部 HP）

3-5 周辺地域

小山市の南西、渡良瀬遊水地周辺に位置する生井地区及び寒川地区は、思川と巴波川に抱かれた田園地帯を形成しています。

生井地区は、栃木県内で最も標高が低く、昔から度重なる水害に悩まされてきた地区であり、地元の人々の知恵として母屋より高く土盛りした「水塚」や洪水時の一時的な移動手段としての「揚舟」が今でも残っています。また、養蚕業や生井桑摘み唄、ヨシ産業、川魚淡水漁業など歴史的・伝統的な文化資源が継承されています。寒川地区は、巴波川流域に広がる平坦な農用地が多く、自然が豊かな田園地帯です。「古代米」に代表される巴波川の恵みがあり、鎌倉時代から続いてきた歴史は地元の誇りです。

生井地区及び寒川地区のデータ

地区	集落	面積 (km ²)	世帯数(うち農業従事)
生井	6	12.27	632(117)
寒川	5	6.44	463(103)

(2020 年2月現在、農林業センサス)

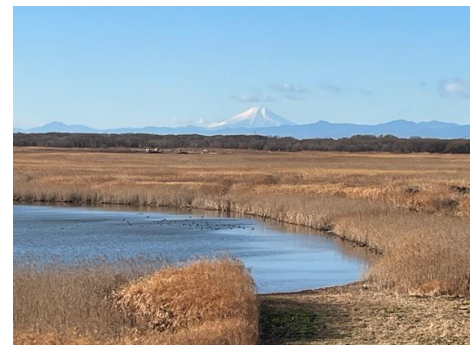


3-6 生井桜つつみ、あんずの里

渡良瀬遊水地沿いにある生井桜つつみは、渡良瀬遊水地の大きなパノラマを望む絶好の地点です。3月のヨシ焼きでは定番の見学スポットとして、壮大なヨシ焼きの様子を見ることができます。ヨシ焼き後、4月からは小山市原産のオモイガワザクラが堤防を彩り、繁殖シーズンを迎えたコウノトリを観察することができます。以降も季節ごとに景色が移り変わり、一年を通して渡良瀬遊水地と田園風景を楽しむことができるスポットです。

冬の澄んだ気候の際は、関東平野を越えて見事な富士山を見ることができ、国土交通省の選定する「関東の富士見百景(渡良瀬遊水地の桜つつみからの富士)」に選ばれています。

渡良瀬遊水地周辺の下生井地域では、生井桜つつみから与良川堤防沿いに、あんずの木が並木状に約1km続く「あんずの里」があり、ヨシ焼き後には春の到来を感じる景色となります。また、地元小学校や住民があんずを収穫し、ジャムづくりなどの取組が行われています。

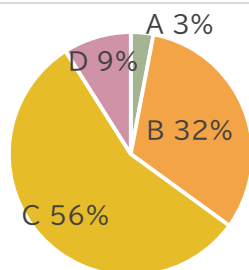


(出典:湿地のグリーンウェイブ HP)

4.第2期計画の検証

(検証年月:令和 5 年 5 月)

4-1 小山市渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画の検証



- A:概ね実施できた(1/34)
- B:半分以上は実施したが、一部改善の余地あり(11/34)
- C:大部分が実施できておらず、改善又は施策見直しの必要性あり(19/34)
- D:全て実施できていない又は事業を中止した(3/34)

■検証の概要

渡良瀬遊水地の魅力を知り、体験・交流ができる拠点としてコウノトリ交流館が整備され、様々な取組に活用されましたが、その過程で機能的に不足する点が指摘されています。

コウノトリ交流館の機能の充実や、交流館と旧思川やあんずの里、生井桜つつみや環境学習フィールド3等のスポットを一体的に捉え、お互いを繋いだ周遊できるような整備が不足しており、アクセスの改善も必要です。

スポーツ・レクリエーションが個々には実施できましたが、遊水地のイベントとして統合的に実施する観点が欠けています。

コウノトリ・トキの保護、環境にやさしい農業の実施、湿地保全活動は一定の実績をあげており、2020 年に東日本初となるコウノトリの野外繁殖によるヒナが誕生し、連続4年でヒナが誕生しています。

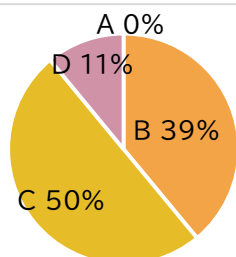
■継続的に実施する主な施策

- | | | |
|------------------|---|---|
| コウノトリ交流館の機能不足 | → | ゾーン①1コウノトリ交流館の整備 |
| 地域を一体的に捉える整備不足 | → | ゾーン①6エコツーリズムの推進
ゾーン③17 スポーツ・レクリエーションの推進 |
| 遊水地及び周辺地域のアクセス向上 | → | ゾーン②8渡良瀬遊水地周辺のアクセス道路整備 |
| 遊水地の環境保全 | → | ゾーン③12 ヨシ原の再生に関する調整
ゾーン③13 湿地保全活動の実施
ゾーン③16 コウノトリ・トキの個体保護 |

■本ビジョンへの繋がり

本ビジョンでは、渡良瀬遊水地、コウノトリ交流館、旧思川、あんずの里、生井桜つつみなど散在しているスポットを一体的な視点で捉え、各対象に対する施策を統合するなどして、お互いを繋ぎ周遊できるような整備を進め、渡良瀬遊水地のワイズユース、地域の活性化を図ります。また、湿地保全はワイズユースの土台となるべき活動であるので、コウノトリ交流館を拠点とし引き続き実施します。

4-2 渡良瀬遊水地第2調節池エコミュージアム基本計画(第2期計画)の検証



- A:概ね実施できた(0/18)
- B:半分以上は実施したが、一部改善の余地あり(7/18)
- C:大部分が実施できておらず、改善又は施策見直しの必要性あり(9/18)
- D:全て実施できていない又は事業を中止した(2/18)

■検証の概要

遊水地の保全・整備の面で、ヨシ原の再生をはじめ未実施の施策があり、自然体験・観察コースの整備や観察・研修施設等のハード面の整備が不足していることが分かりました。また、湿地再生実験や与良川へのゴム堰の設置検討も未実施でした。他市町との連携については一部達成できましたが、改善の余地があります。

「みんなで利用する」ようなソフト面の施策は比較的進んでおり、エコツーリズムが充実しています。他方、維持管理の面では、ボランティア団体の主体的取組が定着していますが、今後ガイド養成など担い手確保に課題があります。地元住民との交流もある程度できてきましたが、周辺地域、関係者との連携には改善の余地があります。

■継続的に実施する施策

未実施の遊水地の保全・整備	→	ゾーン③12 ヨシ原の再生に関する調整 ゾーン③13 湿地保全活動の実施 ゾーン③20 ゾーニング管理の実施
その他未実施の水関連事業	→	ゾーン①2旧思川の整備、導水調整
今後の担い手確保	→	ゾーン⑤23 周辺地域や関係者との連携、協力 ゾーン⑤24 ガイドの養成・生涯学習支援

■本ビジョンへの繋がり

ラムサール条約湿地である渡良瀬遊水地ではワイズユースに基づき、エコミュージアムを推進することは重要です。

本ビジョンのゾーニングでは、地域をゾーニングし、自然環境整備エリアと保全活動実施エリアなどに分けて遊水地と周辺地域の持続的な発展を図ります。

中でも自然環境整備エリアなどでは、ヨシ原の再生を始めとした施策の実施、旧思川の整備に着手するなど、保全と利用活性化のための基盤整備を推進します。

今後はエコツーリズムの内容をさらに充実させ、地域のあらゆる魅力を対象にした体験・観察プログラムを展開していきます。また、周辺地域や関係者と連携し、遊水地へのアクセス向上、魅力発信、情報の共有や周知について進めていきます。